古府っ子

令和５年度　１月号
高岡市立古府小学校
学校だより
令和６年１月９日

「自助」「共助」「公助」の連携の大切さ

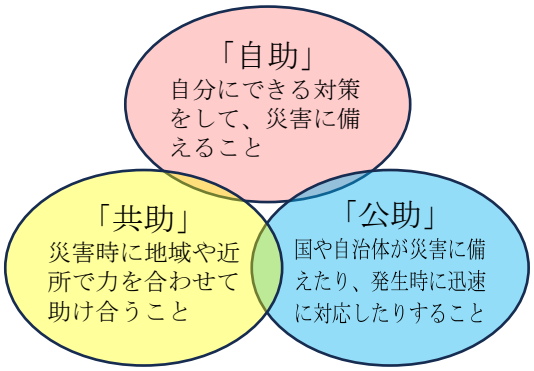
校長　矢田　憲和

令和６年がスタートしました。今年もどうぞよろしくお願いいたします。

さて、元日に能登半島地震が発生し、被災されて大変な思いをされた方々に心よりお見舞いを申し上げます。この度の地震では津波の危険を感じたり、水が出なくなったりして、学校へ避難された方も多くおられました。私も地震発生直後に急いで家族と伏木高校へ避難しました。その後しばらくして、児童、保護者、地域の方の安否や校舎の破損等、様々な不安な気持ちを抱えながら、古府小学校へ向かいました。学校に到着した頃には、すでにグラウンドに多くの車が来ていました。やがて、市の避難所運営職員が到着し、体育館を開けて受け入れを始め、私も災害物資の運搬等を手伝いました。長い教員生活で避難所の対応をするのは初めてのことでした。

避難所の開設に当たっては、本当に多くの地域の方が協力してくださいました。災害備蓄庫からたくさんの毛布や水、非常食等を運び入れてくださった方、箱や封を開け避難者に提供してくださった方、また、多くの提案や助言をしてくださった方々もいらっしゃいました。「床は冷たいから、マットを敷くとよい」「情報が必要だから、テレビは設置できないか」「余震が発生したとき危ないから、窓際から離れた方がいい」「トイレットペーパーが不足するかもしれないから、予備が欲しい」等、避難者が次々と増えつつある中で大きな混乱もなく対応できたのは、このような方々の存在が非常に大きかったと思います。古府地区の自治会の関係者の方、学校近隣にお住まいの方、避難されてきた方、数十年ぶりに会った中学校の同級生、本校の児童、皆さんが避難所の設営に進んで手伝ってくださり、古府地区の方々のボランティア精神や心の温かさを強く感じました。本当にありがとうございました。

古府地区は伏木港、小矢部川、二上山等の美しく豊かな自然に恵まれた地域ですが、一方で自然災害と表裏一体で、日頃からの備えが非常に重要だということを今回の地震で身をもって感じました。自然災害の被害を最小限に抑えるために「自助」「共助」「公助」の連携が大切だと言われます。古府小ではこれまで地震等に備えた避難訓練を行ってきましたが、現在も余震が続いていることから、本日、地震・津波に備えた避難訓練を実施しました。地震発生の放送と共に机の下で頭を守り、その後余震が収まったところで３階へ避難しました。教員も児童もこれまで以上に真剣な表情や態度でした。今後も地震だけでなく様々な災害に備え、児童の安心・安全を守れるように努めて参ります。また、今回の体験を生かし、地域や自治体との連携を平時から心がけていきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



なお、古府小ＨＰでお知らせしておりますが、地震で不安や心配を抱えている児童の心のケアのために、スクールカウンセラーが配置されています。相談したいお子さんがおられましたら、電話や連絡帳等でお知らせください。また、本日「令和６年度能登半島地震にかかる災害救助法の適用に伴う学用品の給与申請について」の案内をお子さんに配付しました。希望される方は、1月 11 日（木）までご提出ください。